

機能美に特化した身障者と健常者が共有できる服の開発研究Ⅲ

Development research on clothes shared by a healthy person
and a physically disabled person specialized in functional beautyⅢ大網 美代子¹, 武田 幸², 山本 正記³, 小川 雄司⁴, 小川 浩¹, 土居 千夏¹, 堀場 愛弓¹, 児玉 育子¹
Miyoko Oami¹, Sachi Takeda², Masaki Yamamoto³, Yuji Ogawa⁴, Hiroshi Ogawa¹
Chinatsu Doi¹, Ayumi Horiba¹ and Ikuko Kodama¹¹大妻女子大学, ²TAKEDA KIKAKU, ³尚美学園大学 (非), ⁴埼玉県総合リハビリテーションセンターキーワード: 機能美, 共有できる服, ノーマライゼーション, ユニバーサルファッション, PBL型授業
Key words: Function beauty, Sharing Clothes, Normalization, Universal fashion, Problem-based Learning

1. 研究目的

本研究は、教育と研究を連携させ、社会のニーズを反映させて身障者と健常者が「共有できる服」の提案を行うものである。平成25年より、身体に障害のある人もおしゃれを楽しむことができる環境を目指して、機能美（機能美とは、障害に対応した機能にデザインを加えることをいう）に特化したデザイン設計の研究を継続している。身障者と健常者が衣服の共有をできれば、個別対応服のような高価格やおしゃれなデザインが少ないという問題を解決できる。「共有できる服」を健常者側に提案することで、アパレル企業に新たなマーケットの創成が可能であると考えられる。

本学創立者である大妻コタカ先生の実技実学は、社会へ貢献できる人材の育成のための実践的教育であり、現在でも変わることのない本質である。本学の不易流行の1つの形を実現するため、研究と教育を連動させ、その成果を社会に発信している。平成30年度も引き続き、着脱のしやすさ、片麻痺による手・足の可動域、車椅子使用による座位姿勢に対応した機能にデザインを加えた「共有できる服」の機能美を検証する。

2. 研究実施内容

「共有できる服」のデザイン設計

着脱がしやすく片麻痺の人に対応したUNI FASHION (UNIVERSITYとUNIVERSALをかけた女子大生と障害者のおしゃれの共有)として、トップス4点、スカート6点、ワンピース2点のデザイン設計を行った。モデルの身体の状態は表1、3年ゼミナールの学生13名およびモデル3名の採寸の結

果は表2の通りである。

パターンはマスターパターンを使用して、デザインに合わせてパターンメイキングを行った。衣服のサイズはワンサイズでどこまでカバーできるかを検討した。表2の学生のバスト寸法は、最小値72.0cm・最大値88.0cmで、その差は16.0cm。ウエスト寸法は、最小値58.0cm・最大値71.5cmで、その差は13.5cm。ヒップ寸法は、最小値79.0cm・最大値96.5cmで、その差は17.5cmである。同様に、各採寸項目の差を考慮してデザイン設計を行った。はじめにトワールサンプルを作成し、学生13名が12着を試着して、昨年と同様にサイズ、デザイン、機能、その他の4項目で評価を行った。試着観察では、片手で着脱したり、座位姿勢や日常的な動作に対するゆとり量や着心地を確認した後、修正を行った。

次に、3名のモデルを対象にデザインに関するアンケートを行った。「着てみたいと思う服」を選んでもらい、試着観察をしてそれぞれの機能についての検証および聞き取りの結果を反映させて、パターン修正を行った(図1)。

表1. モデルの身体の状態

	性別	年齢	身体の状態
B-1	女性	40歳	左側上肢・下肢麻痺、装具、杖使用
B-2	女性	41歳	両下肢麻痺、左装具使用
B-3	女性	44歳	右側上肢・下肢麻痺、装具、杖使用

表2. 身体寸法 (A: 学生, B: モデル)

採寸表	バスト cm	ウエスト cm	ヒップ cm	腰丈 cm	背丈 cm	総丈 cm	袖丈 cm	背肩幅 cm	背巾 cm	首周り cm	股上 cm	身長 cm	体重 kg
A-1	79.5	61.0	87.5	17.5	39.0	143.0	52.0	35.5	32.0	35.5	27.5	164.5	47.0
A-2	86.0	69.0	91.0	20.0	35.5	136.0	53.5	37.0	35.0	37.5	27.0	160.0	58.0
A-3	79.0	59.0	85.0	16.5	36.0	130.0	52.0	39.0	33.0	36.0	25.0	151.0	41.0
A-4	86.0	65.5	87.0	18.0	38.5	139.5	55.5	43.0	36.5	38.5	27.0	164.0	49.0
A-5	82.5	67.0	90.0	20.0	35.0	138.0	57.0	37.0	34.5	38.5	27.0	163.0	50.0
A-6	72.0	58.0	79.0	19.0	37.5	136.0	53.0	38.0	32.0	36.0	26.0	158.0	40.0
A-7	86.5	71.5	96.5	17.5	35.0	138.5	51.5	39.0	35.0	36.5	25.0	155.0	55.0
A-8	82.0	64.0	93.0	19.0	39.0	139.0	52.0	41.0	36.5	37.0	25.5	163.0	49.0
A-9	88.0	65.0	91.0	18.0	38.0	145.0	56.0	42.5	33.0	38.5	26.0	165.0	48.0
A-10	82.0	61.0	93.0	18.0	36.0	136.0	57.0	38.5	32.0	39.0	24.0	165.0	48.0
A-11	84.0	61.5	89.5	18.5	36.0	133.0	51.5	37.0	31.5	34.5	26.0	158.0	47.0
A-12	82.0	69.5	87.5	18.0	33.5	132.5	53.0	40.0	34.0	38.0	25.0	158.0	47.0
A-13	88.0	65.0	87.0	16.0	35.0	126.0	47.5	38.0	31.0	36.0	27.0	151.5	46.5
平均値	82.9	64.4	89.0	18.2	36.5	136.3	53.2	38.9	33.5	37.0	26.0	159.7	48.1

採寸表	バスト cm	ウエスト cm	ヒップ cm	背丈 cm	総丈 cm	袖丈 cm	背肩幅 cm	背巾 cm	身長 cm
B-1	82.5	68.0	88.5	36.5	142.0	52.5	40.0	33.0	160.0
B-2	81.5	64.0	84.5	37.0	138.5	51.0	39.0	30.5	162.0
B-3	89.0	73.0	94.0	38.0	143.5	55.5	38.0	34.0	166.0
平均値	84.3	68.3	89.0	37.2	141.3	53.0	39.0	32.5	162.7



図1. 機能美を備えた「共有できる服」

3. まとめと今後の課題

衣服は気候や環境からからだを守ったり、自己表現をしたりすると共に、気持ちが元気になる等、からだところを支える重要なツールである。年齢・性別・障害の有無に関わらずおしゃれを楽しむことができる環境に向けて、機能美に特化した身障者と健常者が「共有できる服」の提案を行っている。本研究は6年目を向かえ、研究法やデザイン設計の手法も確立してきた。「共有できる服」になり得たかどうかの判断基準は、障害のある人の身体に対応した機能を備えていることと女子大生が着たい服になっていることである。これらは試着観察およびファッションショーを通して検証している。年度末には、デザイナー・パタンナーによる外部評価を受け、機能美並びに商品としての可能性を検討している。平成30年度の「共有できる服」の詳細については、別稿にて述べる。

大学におけるファッションショーは、教育効果や機能美の検証の場であるとともに、身障者衣服の現状を共有し、共に生きることを可視化することでもある。「共有できる服」は、自己を受け入れ他者を受け入れ、共に生きる社会に向けて、バリアを取り払うというノーマライゼーションの視点も有する。研究の成果は身体に障害のある人が衣服を着用することで笑顔になることである。笑顔がもたらす効果は、自分だけでなく周囲も明る

い気持ちにさせる効果がある。医学的にも笑顔でいることは、病気を治したり、気持ちが落ち着いたりする効果があることが認められている。誰もがおしゃれを楽しむことができる環境は、誰もが健康に暮らせる環境でもある。身体の障害を個性と思えるような社会環境への1つの提案である。

今後の課題は、学科連携や学部を超えて横断的な教育・研究を行い研究と教育を連動させ、その成果を社会に発信し、身障者と健常者が「共有できる服」のコンセプトを消費者やアパレル業界に認知してもらうことである。また、デザイン設計においては、過去のデータを基に構成・装飾の考え方を体系づけ、「主体的な学びのための持続的デザインシステム」と連動させてデザインの考え方を構築していきたい。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]服飾文化学会誌 平成31年投稿予定

②その他、ファッションショー

[1]今年度の成果発表として、平成29年10月27日・28日文化祭にて展示・ポスター発表、平成30年3月23日（土）本学にてファッションショーを開催。

[2]6年間の成果発表として 2019年10月26日（土）・27日（日）開催・商品販売予定